

第一回学校評議員会の実施報告書

岐阜県立関特別支援学校

校長 岩塚 政司

学校住所 関市桐ヶ丘一丁目 2 番地

電話 (0575) 22-4238

1 会議の名称 岐阜県立関特別支援学校 学校評議員会

2 会議の構成 【 学校評議員 】

(50音順) 小野木 秀夫 関市民生委員
澤井 基光 関市社会福祉協議会会長
白幡 久美子 中部学院大学短期大学部教授
中上 達美 社会福祉法人美谷会エリアちゅうのうみに管理長
林 映二 卒業生・Man to Man Animo 株式会社 Web 事業部マネージャー

【 学校職員 】

岩塚 政司	校長	熊崎 律弥	小学部主事
福富 茂美	教頭	杉本 雅晴	中学部主事
下川 正利	事務部長	乙津真由美	高等部主事

3 会議の目的 学校運営について地域住民や学識経験者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた活力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成27年6月30日(火) 10:00~12:00

岐阜県立関特別支援学校 小会議室

会の内容(主な議題等)

- (1) 授業参観
- (2) 校長あいさつ(学校評議員委嘱)
- (3) 出席者自己紹介
- (4) 平成27年度の教育計画及び各学部の取り組みについて
- (5) 高等部作業学習製品の販売価格について
- (6) 授業参観の感想や関特別支援学校についてのご意見等
- (7) その他

5 会議の概要

校長あいさつ

- ・本年度の学校評議員をお願いいたします。関市社会福祉協議会の会長が代わられたことに伴い、本年度より澤井さんに評議員をお願いすることになりました。皆様の忌憚のないご意見をお聞かせいただき、学校改善に役立てたいと考えています。

テーマ1 平成27年度の教育計画及び各学部の取り組みについて

(1) 学校の教育目標、学校経営の方針について

- ・当校にあっては児童生徒数の減少に直面している。来年度は70人の確保が難しくなることが予測される。また、岐阜県の各地域に特別支援学校を設置するという方針のもと、中濃特別支援学校と2校で地域総合化を図ることになる。本年度より病弱の受け入れが始まり、中濃特別

支援学校の分教室が当校校舎内に設置された。平成30年度を目標に高等部に軽度知的障がい
の生徒を受け入れるための検討をしている。

- ・今年度学校として大事にしたい点が3つある。1つ目は、明るく、安心・安全な学校であるために、中濃特別支援学校との連携、防災意識の向上と警報等への迅速で確実な対応、保護者等への積極的な情報提供等を行っていく。2つ目は、児童生徒が意欲的に学ぶために、ICT機器の積極的な活用、50周年関連行事の実施、幅広い障がいに対応できる指導力の向上等を図る。3つ目は、社会参加・自立のために、居住地校交流・学校間交流の推進、進路に関わる情報提供の工夫、地域の教育資源の活用等を行う。
 - ・本年度の主な取組としては、プロジェクト委員会を通じた全校体制での学校課題への取組、中濃特別支援学校生徒との積極的な関わりを通してお互いのよさを生かす活動の充実、関商工高等学校との交流及び共同学習の充実、50周年記念行事の開催、幅広い地域作品展の開催、30年度に向けた準備、「学校だより」の発行、病弱を中心にした幅広い研修等があげられる。
- (2) 各部主事による小学部、中学部、高等部の児童生徒の状況、指導の目標、行事等について

<小学部>

- ・障がいの重い子どもが多く、一人一人に応じたきめ細かな指導を行っている。
- ・ともだち学級、なかま学級、なかよし学級の取組。

<中学部>

- ・生徒数の減少に対して、学部行事の見直し、集団活動の設定。
- ・保護者へのニーズへの対応として学部通信発行、授業参観週間の設定。

<高等部>

- ・作業学習で作った製品の販売、進路体験実習等社会参加を目指した取組。

<寄宿舎>

- ・舎生会、外出活動、季節行事等の紹介。

テーマ2 高等部作業学習製品の販売価格について

質問1 価格が安いのではないか。材料費に手間賃を込みにしてはどうか。

学校 県費で材料費を出し、売り上げは県に戻すことになっている。学校としては原材料費を割らない程度にしている。また、肢体が不自由なために作業学習の時間にできる製品の量が少ない。しかし、一人一人が作ったものが分かり、販売する際にも愛着をもってやっている。

質問2 パンは量産できないのか。

学校 オープンが小さく、量産できない。今後、専門学科の設置に向けて、大型オープンを購入するなどすれば量産も可能になる。

質問3 作った製品は販売しているのか。

学校 ふれあいまつり、学校祭等の行事で販売を行っている。

質問4 (道の駅等) 常設で販売しているところはないか。

学校 職員室で職員に対して販売している。数が確保できないので外で売るとは難しい。

意見1 茶碗等短期間で30個ほど作れるか。道の駅に並べるなら、3~4日で30個くらい作れないと難しいと思う。

意見2 常設でなくても、イベント的でよいのでは。授産所で作った製品も道の駅に置いてある。関有知高等学校の製品も置いてあるがイベント的である。

学校6 展示をするだけでもよいと思う。ブースを作って1ヶ月くらい並べるのもよいと思う。

意見3 例えば、他の特別支援学校が喫茶サービスをしているところに使ってもらってはどうか。カレンダーなら大垣特別支援学校に印刷班があるので、コラボして何かを作ったら面白いものができるのではないか。

学校7 貴重な意見をありがとうございました。

テーマ3 関特別支援学校についての意見等

- 質問1 ふれあいまつりでは、地域の自治会にもチラシを配ったと聞いた。昨年度と比べてどのくらい参加者が増えたか。
- 学 校 来校者を全て数えることはできなかったが、駐車場の埋まり具合を見ると、昨年度は3分の2ほどだったが、本年度は全て埋まっていた。販売していた製品も全て売れた。
- 意見1 地域の人から「すごい人だった。」「あんなに安く売ってよいのか。」という意見もあった。チラシによって、地域の関心をもってもらえたことはよかった。まずは、地域の人に学校に入ってもらうことが大切だと思う。
- 学 校 今年度は岐阜新聞にチラシを入れ、景品交換券も付けた。始まる前から並んでいた人もいた。受付なしで入られた方もみえたため、正確には分からないが、300人くらいはみえていたのではないかと。
- 質問2 進路未定者がいないということは、先生方の努力のおかげだと思う。障害福祉サービス利用とあるが、具体的な進路先を教えてください。
- 学 校 岐阜市の「清流園」、岐南町の「ゆきの舞」、各務原市の「福百合園」「福祉の里ぼぶら」、羽島市の「あいそら羽島」、春日井市の「夢の家」等である。
- 質問3 教員と生徒が1対1で学んでいたが、グループ（集団）の中で学ぶことは多くある。グループ（集団）で学ぶことで競い合うことも大切である。その点はどのように考えているのか。
- 学 校 校外学習等で学級を越えて合同で活動するなど、集団を意図的につくっている。また、部集会の在り方を工夫したり、（居住地校交流で）間接交流から直接交流にもっていく努力をしたりしている。
- 質問4 なぜ直接交流が少ないのか。
- 学 校 小学部では学級担任がつくので直接交流もよくやっているが、中学部では教科担任制であるため、担任がつくことが難しい。保護者に付き添いをお願いすることになるため、直接交流の希望が少なくなるということが理由の一つと考えられる。現在、間接交流を含めると児童生徒の8割が交流を行っているが、直接交流は3割である。直接交流が増えていくように努力していきたい。
- 質問5 学校を卒業すると、人とのつながりが薄くなりがちである。卒業後に生徒が集まる機会はあるのか。
- 学 校 同窓会、成人を祝う会等がある。あと、担任が進路先を訪問することもある。
- 質問6 卒業する腹を割って話せる相手が少なくなる。社会に出たばかりの生徒の不安をやわらげるようなことはしているか。
- 学 校 卒業前に個別に移行支援会議を行い、社会とのつながりを作っている。卒業後3年間はアフターフォローをしている。
- 意見2 授業を見させていただいたが、とても手厚くやっている。生活介護等に行くと、ここまで手厚くない。とてもよいことだと思うが、ここからいっぺんに社会に出るとたいへんである。何とか社会につなげていくようにしてほしい。作業所等では利用者が来なければ、そのままになってしまう。ギャップが大きいのが現状である。
- 質問7 50周年ということでたいへんだと思うが、学校を活性化するタイミングととらえ、継続的に取り組んでほしい。協賛事業等50周年として特別に行っていることはあるか。
- 学 校 資料にあるように、年間を通じて50周年記念行事を組み込んでいる。記念Tシャツやポロシャツも多くの方に購入していただいた。

6 会議のまとめ（校長より）

いろいろな意見をいただきありがとうございました。意見をもとに改善していきたいと考えています。50周年記念事業については、協賛というかたちはとっていません。記念碑等の形に残ることはしませんが、児童生徒にとって大きく心に残ることをやっていきたいと考えています。評議員の皆様には11月の式典にも足を運んでいただき、祝っていただければと思います。本日はありがとうございました。